

ミュージズ N0.15 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2005年6月

事務局：立命館大学国際平和ミュージアム

館長：安齋育郎

編集：山辺昌彦、山根和代

イラスト：戸崎恵理子

603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899 <http://www.ritsumei.ac.jp>

全国の平和博物館、平和資料館などの活動について、お知らせします。平和博物館国際ネットワークのNewsletterはまだ発行されていませんので、こちらに入ってきているニュースをお知らせします。

「平和のための博物館・市民ネットワーク」 第5回全国交流会のお知らせ

2005年12月3日(土)午後と4日(日)に、京都市の立命館大学国際平和ミュージアムの会議室で「平和のための博物館・市民ネットワーク第5回全国交流会」を開催します。あわせてリニューアルなった立命館大学国際平和ミュージアムの見学会もおこないます。3日の夜には懇親会を予定しています。

報告および参加をご希望の方は立命館大学国際平和ミュージアムの山辺あてに、10月までに申し込みください。詳細を連絡致します。宿泊は各人でご用意ください。

第35回 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 開催のご案内

毎年夏に行なわれております全国連絡会

議を、昨年の横浜に続き今年は長岡で開催いたします。会議の日程がほぼ決まりましたのでご案内いたします。今回は会議を長岡祭り期間中(8月1日~3日)といたしましたので、併せてお楽しみいただければ幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



ゲルニカ平和博物館(国際会議については、「海外のニュース」を御覧下さい)

1. 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議の開催日程について
2005年8月1日(月)～2日(火)
2. 会場について
朝日生命長岡ビル 6F大ホール
(予定)
住所 長岡市東坂之上町1丁目2-5 Tel:0258 32 1610
交通 JR長岡駅より徒歩3分
3. 宿泊先について
長岡ターミナルホテル
住所 長岡市城内町2丁目1-7
TEL 0258 32 2344
交通 JR長岡駅より徒歩1分
HOTEL & OFFICE 崇徳館
住所 長岡市殿町2丁目3-9
TEL 0258 32 0106
交通 JR長岡駅より徒歩5分
4. 会議終了後のフィールドワーク及び長岡祭り花火大会について
8月1日 交流会後 前夜祭「柿川灯籠流し」「民謡流し」見学
8月2日 フィールドワーク(戦災資料館等 市内史跡めぐりを予定しています。)
8月2日 長岡祭り花火大会
(19:30～21:15)
5. 連絡先
長岡大会事務局長 神保 千春
〒940-0064 長岡市殿町2丁目3-9
TEL 0258 32 0106
FAX 0258 32 2647
chiharu@soutokukan.co.jp

平和のための博物館・市民ネットワーク 第4回全国交流会の報告

2004年11月27日(土)と28日(日)、東京都江東区の夢の島公園にある「ぶんぶく東京スポーツ文化館」で「平和のための博物館・市民ネットワーク第4回全国交流会」が、38名の参加で第五福竜丸展示館と東京大空襲・戦災資料センターの協力により開催されました。

交流会ではまず、第五福竜丸平和協会会長の川崎昭一郎さんが歓迎のあいさつをされました。ついで、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の前事務局長であった、平和資料館「草の家」館長の西森茂夫さんが2004年8月21日に亡くなりましたが、「草の家」国際部長の山根和代さんが西森さんへの追悼の言葉を述べられました。

交流会では以下の報告がありました。

1. 日本機関紙協会埼玉県本部の二橋元長さん「『戦争の悲惨さを知る、平和の尊さを学ぶ』から、平和の担い手の育成へ～『戦争展』企画の推移と今後の課題」
2. 長岡市の峰村剛さん「なぜ、長岡市が空襲されたかの考察と被害が拡大した理由」
3. 山梨・平和資料センター準備会の安藤正文さん「山梨・平和資料センター建設に向けて」
4. 第五福竜丸平和協会の安田和也さん「第五福竜丸展示館でのピキニ水爆被災50周年記念事業について」
5. 「女たちの戦争と平和資料館」建設委員事務局の渡辺美奈さん「アクティブ・ミュージアム『女たちの戦争と平和資料館』実現に向けて」
6. 平和友の会の川畑康郎さん「新しい

出会いと交流のひろがり～2004年5月ヨ
ーロッパ平和ツアーの体験」

7. 平和資料館「草の家」の金英丸さん
「戦争の記憶、戦争責任を考える若者たち」

8. 東京大空襲・戦災資料センターの梶
慶一郎さん「東京大空襲・戦災資料センタ
ーの現状と今後」

9. 平和友の会の片山一美さん「立命館
大学国際平和ミュージアムにおける市民活
動としての平和友の会」

10. 第五福竜丸ボランティアの会の大幡
嘉子さん「第五福竜丸展示館におけるボラ
ンティアの活動から～若い世代に伝えたい」

11. 京都教育大学の村上登司文さん「戦
争について展示する博物館～平和博物館と
軍事博物館の社会的比較」

12. 愛知教育大学の南守夫さん「ドイツ
の軍関係戦争展示をめぐって～国防軍展と
ベルリン・ガトウ空軍博物館について」

13. 立正大学の藤田秀雄さん「平和のた
めの行動の学習～『平和に生きることを学
ぶ』ために」

また第五福竜丸展示館と東京大空襲・戦
災資料センターの見学会も開催しました。

交流会では、平和のための博物館・市民
ネットワークの会計・事業報告がなされま
したが、2005年12月に立命館大学国際平
和ミュージアムで第5回全国交流会を開く
こと、2005年度は引き続き立命館大学国際
平和ミュージアムが事務局を担うが、2006
年度からは東京大空襲・戦災資料センター
が事務局を引き受けることを確認しました。

平和のための博物館・市民ネットワーク 会計報告

(2003年11月～2004年11月)

会計報告

収入

会費	170000円
カンパ	6000円
繰越	122255円
計	298255円

支出

送料	166430円
事務費	600円
繰越	131225円
計	298255円

内訳

会費

1999年度	1人
2000年度	3人
2001年度	4人
2002年度	4人
2003年度	19人
2004年度	47人
2005年度	4人
2006年度	1人
2007年度	1人
2008年度	1人
計	85人

送料

英文10号	46360円
日文11号	17790円
日文12号	17920円
英文11号	49360円
日文13号	15900円

日文14号 19100円
計 166430円

繰越

郵便振替 131130円
現金 95円
計 131225円

会員状況

個人会員 78人
2010年まで納付 1人
2008年まで納付 1人
2005年まで納付 6人
2004年まで納付 42人
2003年まで納付 18人
2002年まで納付 6人
2001年まで納付 1人
2000年まで納付 1人
1999年のみ納付 2人

退会 12人
入会 8人

2004年11月27、28日

平和博物館市民ネット全国交流会への 報告・発言要旨

第五福竜丸展示館でのビキニ水爆被災50 周年記念事業についての報告

第五福竜丸平和協会事務局長 安田和也

都立第五福竜丸展示館を管理運営する財団法人第五福竜丸平和協会は、ビキニ水爆被災50周年にあたる2004年、約1年間にわたり記念事業を展開した。

1、常設展示のリニューアル...「第五福竜

丸を知らない世代に伝えたい」をコンセプトにビジュアルな展示とした。

2、記念出版として初めての図録『写真でたどる第五福竜丸』を編集発行した。

3、6回の特別展を開催した。

1) 第五福竜丸乗組員の日用品など特別展(2・14~4・17)

2) 岡本太郎「明日の神話」の第五福竜丸展(4・3~4・11)

3) 島田興生写真展「曝された樂園
いのち、子どもの未来」(5・15~6・27)

4) 現代アート展「コラプシング・ヒストリーズ - 時・空間・場所」アメリカから12人、日本から2名の美術家が作品を出展(7・16~8・15)

5) 「手紙 託された心 久保山愛吉さんと家族に寄せられた手紙」より100通を展示 / 新俳句人連盟・久保山忌句会による俳句展(9・23~10・17)

6) 豊崎博光写真展「ビキニ水爆 50年・地球被曝60年 核が作り出した光景」(11・20~05・1・23)

4、巡回展の開催 (規模の異なる2種類の巡回展示パネルセットを作製。製作には立命館大学国際平和ミュージアム、焼津市歴史民俗資料館、日本新聞博物館、船舶通信士労働組合の協力を得た)

高知市、立命館大学国際平和ミュージアム(大規模展示)伊丹市、岸和田市、鹿児島市、西宮市、丸亀市、平和・戦争展などで

2005年は広島・長崎の原爆資

料館にての展示会を計画中

- 5、その他 「ビキニ被災 50 年研究集会」
2004 年 2 月 20 日への協賛参加、「手記」
公募など、新聞、TV、ラジオ、雑誌など
各メディアなどで取り上げられた。
- 6、50 周年記念事業をつうじて... 改めて
船体が保存展示されている意味が浮き彫
りに（保存の運動、原水爆禁止を願う国
民的な声） 第五福竜丸から多様な発信
をする可能性（アート展など） 50
年前の事件ではなく今日の核と戦争と平
和を考えるきっかけとなる展示館として
の役割 核実験被害、核問題の展示、
資料収集の必要性、若い研究者との連繫
など、今後の活動への新たな可能性をつ
くりだした。

新しい出会いと交流の広がり

- 2004 年 5 月 ヨーロッパ平和ツアーの ささやかな体験 -

京都 国際平和ミュージアム 平和友の会
川畑康郎

2004 年 5 月中旬、7 泊 8 日の日程で、ヨー
ロッパ平和ツアーに参加しました。訪問先
は、ポーランド（アウシュヴィッツ、ビル
ケナウ、クラクフ）とオーストリア（ウ
ィーン、シュライニング）。主催は、福島県
白河市にあるアウシュヴィッツ平和博物館。

アウシュヴィッツ、ビルケナウは、い
ずれも 39 年ポーランドを占領したドイツ
がつけた呼称。ポーランド本来の呼称は、
前者がオシフィエンチム 後者がブジェジ
ンカ。ついでに、アウシュヴィッツには第
一（1 号）第 2（2 号）第 3（3 号）の 3 つ
があること、第 2（2 号）はビルケナウ第 3

（3 号）はモノヴィッツであることを知り
ました。

白河の平和博物館のことは、寡聞にして
知りませんでした。

98 年、国立オシフィエンチム博物館から
借りうけた資料をもとにアウシュヴィッツ
の全国巡回展が開かれたあと、常設展設置
の要望が高まり、一旦、栃木県塩谷町に建
設されたものの、事情があって移転せざる
を得なくなった時、篤志家やボランティア
の協力で、03 年現在地に移転、04 年 4 月、
博物館は NPO 法人格をとりました。建設
や運営などに関わったボランティアの献身的
な活動には、脱帽です。

平和ツアーの報告から少し脇道にそれま
すが、去る 9 月、この博物館が中心となっ
て、映画（戦場のピアニスト）と講演（映
画の主人公の子息スピルマンさん、日本語
が堪能、現在九州の大学で教鞭をとる）の
文化フォーラムが行なわれ、成功をおさめ
ました。来年は、後述するツアーで出会っ
た音楽家（ピアノ連弾のクトロヴァッツ兄
弟、二人とも現在国立ウィーン音楽大教授）
とアウシュヴィッツの生存者（アルピン
氏、アウシュヴィッツ連盟副理事長）を招
いての集いを企画されています。戦後 60 年
の節目の企画の一つとして、全国的な取り
組みにならないかと個人的には思っていま
す。

閑話休題

アウシュヴィッツとその約 3 倍の広さの
ビルケナウの収容所跡は、「目を背けたくて
もそむけてはいけない」（混声合唱組曲「悪
魔の飽食」）非人間的な数々の行為の証
にみちていました。死の壁、立ち牢、有刺
鉄線、焼却場、トイレなど、その例は枚挙

にいとまがありません。点呼にまつわる説明も忘れられません。イスラエルの少年兵をはじめ子どもたちをふくめた多くの来訪者がありましたが、悲劇を繰り返さないために何をなすべきかが鋭く問われていると強く思いました。

ツアーの目的の一つは、ウィーンの南120 kmにあるシュライニングの古城—ヨーロッパ最大規模の平和博物館に変身、第2回世界平和博物館会議の会場。その際第3回の会議（98年）は日本での開催が決まりました—を訪れることでした。

というのは、第3回世界博物館会議の時、古城の博物館に展示したいと持帰られた私たち日本（高知“草の家”や京都平和友の会など）の展示作品が本当にきちんと展示されているのか確かめたいという長年の思いがあったからです。

結果は残念でしたが、「展示するときは事前に連絡する」ことなど今後につながる回答が得られたことは、収穫でした。

博物館の展示は、「予算がないので十分な展示ができていない」（理事長）ということでしたが、展示の内容を色彩で示す工夫もされた展示室は、暴力（黒）、紛争（赤）、平和（白）の3つの階に分れていました。環境問題は、城内の空間が巧みに活用されていました。

圧巻だったのは、古城の地下ホール（収容数約200）での国際平和音楽祭。今年で4回目。毎回テーマがあり、1回目は「平和」、2回目は「水」、3回目は「動物」、今回は「根と葉」。日本の出演者（琴、尺八）や作曲家夫妻の姿もありましたが、企画の主催者とされるクトロヴァッツ兄弟（ ）のピアノ連弾に圧倒されました。

平和への思いと出身州への恩返しということで、01年から国際平和音楽祭「春の響き - シュライニング」を創設し自ら総監督。日本にもよく訪れ、「ピアノさえあれば」と各地の学校や温泉地で公演。最も小規模だったのは北海道・稚内の小学校（生徒数28人）、今年10月には、東京や滋賀などでも公演、好評。

夜の演奏会終了後、城内の別の場所に移り、出演者、その家族、スタッフ、聴衆を交えて交流会が持たれましたが、大いに盛り上がりました。私たちもその輪の中にいて、そこでまた新しい出会いが生まれました。

帰国後、余韻さめやらぬ時、今夏の京都の戦争展の企画の一つとして、ツアーに同行頂いたアウシュヴィッツ平和博物館の山田理事長の講演会を行なったことはじめ、新しい出会いが始まっています。

白河の博物館は、毎年ツアーをする計画を持っておられるようです。

戦争の残虐さを告発するアウシュヴィッツ・ビルケナウ、文化を含めて平和の発信をするシュライニング - 2つの都市を結ぶ今回のツアーは、まさに“平和ツアー”の名にふさわしいものでした。そこでの発信を受けてどうするのが問われていると受け止めています。

国際平和ミュージアムにおける 市民活動としての「平和友の会」

私たちは構造的暴力のない状態という平和の概念に共感し、活動の基調としています。会の出発点が「ガイド養成講座」でしたので、ミュージアムのガイドのみになり

がちですが活動領域をもう少し広く考えています。

学習部会は定期的に学習会を開き、広報部会では「友の会だより」を発行して、情報提供だけでなく学習会報告や他団体の活動なども掲載して、私たちの思いを発信しています。ツアー部会は毎年「安齋先生と行く平和ツアー」を実施しています。

ガイド活動においては、戦争体験者の高齢化によっても語り部的なガイドの手法も限界がきています。語り継いでいくことが大切だと思っていますが人材不足が大きな課題です。

「平和のための京都の戦争展」では、教育に関する展示を担当してきました。昨年は「心のノート」、今年は「教育基本法」に焦点を当てました。しかし、平和友の会が何故、立命館大学平和ミュージアムを活動の拠点としているのか。単に、展示ガイドのお手伝いをする事に止まらず、あくまでも市民活動であることのスタンスを保持しながら、ミュージアム、公共機関、他の市民グループと連携して活動できる力量をつけていくこと、どのように実践的な活動をしていくのか、10年という長い助走期間を終えた私たちは、これらの課題をしっかりと問い直し、次の10年を歩みたいと願っています。

(片山一美氏より)

女たちの戦争と平和資料館、準備を進めています！

2002年10月にたちあげた「女たちの戦争と平和資料館」建設運動も、はや2年が経とうとしている。この間、建設委員会を

組織して、「慰安婦」、現代の紛争下の女性に対する暴力、沖縄、松井文庫、映像記録、データ構築の各チームに別れ、資料収集やネットワーク構築を進めてきた。

また、2004年はドイツにおける「アクティブ・ミュージアム運動」(加害の現場に追悼施設をつくって歴史を学び、活動の場にしていく市民の運動)に共鳴し、学習会も重ねてきた。10月にはドイツからトーマス・ルッツさん(「テロルの地勢」財団・記念館室長)をお呼びして、ドイツにおける「過去の克服」と加害の歴史の記憶についてシンポジウムを開いた。「加害の記録」は、私たちの資料館の大きな柱の1つである。

史実をねじまげようとする風潮のなかで、また、21世紀が戦争ではじまり、女性に対する暴力がまだまだ武器として使われているなかで、「女たちの戦争と平和資料館」の必要性は高まっている。2005年には、「慰安婦」と教科書をテーマにした企画展や、映像祭も予定している。ぜひ、今後ともご指導ご協力お願いします。

(渡辺美奈・「女たちの戦争と平和資料館」建設委員会事務局長)



erico

なぜ長岡市が空襲されたのかの考察と 被害が拡大した理由

「長岡空襲 60 人の証言」編著者 崎村剛

長岡空襲の概要

1. 空襲された日時：昭和 20 年（1945 年）
8 月 1 日午前 10 時半から 12 時 10 分
2. 空襲された場所：市街地の 8 割以上と隣接の古志郡、三島郡の一部が焼失罹災（焼失）戸数 11,986 戸
3. 空襲による死傷者：死亡者 1470 人以上、重軽傷者 5000 人以上（推定）
4. 空襲のようす：B 2 9 1 2 5 機 投下した焼夷弾 925 トン（子弾約 14 万発）
5. 空襲の仕方：編隊を組んで周りから中心部へ爆撃（絨毯爆撃）
5. 同日空襲された他市：大規模空襲～富山市（B 2 9 が 173 機。投下焼夷弾が 1 4 6 5 t）、水戸市（167 機、1 1 4 8 t）、八王子市（169 機、1 5 9 3 t）
小規模空襲～川崎市、横浜市、神戸市、立川市、銚子市

なぜ長岡氏が空襲されたのかの考察

1. 山本五十六元帥出身地説（生前は連合艦隊司令長官）
2. 軍需工場地帯説
3. 交通幹線遮断説
4. 油田地帯破壊説
5. アメリカ側の資料から推察される新しい説（1945 年 7 月 26 日のポツダム宣言を日本が受け入れないので、アメリカの威力を示すために日本の空襲を拡大したという説）

被害が拡大した理由

1. 多数の焼夷弾が投下された

2. 防空壕に非難した人が多かった（日本軍の指導）

3. 神社の境内に大きな公共の防空壕があった。

4. 市街地に柿川が蛇行し、端が落ち逃げ場を失った（水温 50 度以上の所も）

5. 市街地に木造つくりの焦点が密集していた（長岡市は、商業都市）

6. 神社に非難すれば、神様が守ってくれると思った

7. 空襲後、負傷者の治療ができなかった。

アウシュヴィッツ平和博物館

アウシュヴィッツ平和博物館は、広島原爆ドームと同様に「人類が二度と繰り返してはならない 20 世紀の負の遺産」としてユネスコ世界遺産に指定されているアウシュヴィッツ収容所（第二次世界大戦時に、100 万人以上の尊い命が奪われたナチスドイツの強制収容所。現在はポーランド政府が国立博物館として保存）の遺品・記録写真を巡回展示してきた草の根の市民グループ『『心に刻むアウシュヴィッツ展』全国実行委員会』を母体として、2000 年 4 月に栃木県塩谷町に開館した仮展示館が、本格的な平和教育施設の建設をめざして現在地（福島県白河市）に移転、2003 年 4 月に再オープンした施設である。「市民による手づくりの博物館」を標榜する同博物館は、アウシュヴィッツの惨禍を次世代に伝えていくことによって「いのちと平和」の尊さを訴え、特に、学校教育を補完する施設として小中高生の人権平和教育の推進に寄与することを最大の目的としている。

常設展示室は、堅固な木造の建物の中にあ

る。建物全体を支える梁は、江戸時代中期の古民家を移築したもので、賛同者から寄贈された部材を、延べ 200 人にのぼるボランティアたちの手で一つひとつ組みあげた、まさに「手づくり博物館」である。行政や企業に頼らない市民主体の施設らしく、将来の本館建設を視野に入れつつも、はじめは、この慎ましい建物でのスタートとなった。企画展示室は、支援者から寄贈された本物の貨車 2 両の内部を改造したユニークな展示施設。

常設展示は、アウシュヴィッツの記録を中心に、『アンネ・フランク』、『レスキューアーズ』の 2 コーナーが併設されている。

アウシュヴィッツの記録は、遺品、絵画、記録写真を通して、惨禍が起る原因となった社会背景等も含め、その全体像を検証する構成になっている。一方、『アンネ・フランク』のコーナーでは、アンネの日記の作者で、アウシュヴィッツに送られながら最期まで人間の良心を信じ続けた少女の生涯を、スナップ写真でつづった小さなギャラリーである。最後の『レスキューアーズ』コーナーは、杉原千畝やコルベ神父など、ナチス占領下で恐怖におびえる人々を命がけで救った人たちの活動を通して、「他者を思いやる勇気」を問いかける展示である。(このコーナーには、1992 年にニューヨーク近代美術館で開催され、全米各地を巡回した「勇氣ある人々の肖像展(英語名: Rescuers The portraits of Moral courage in the Holocaust)」の一部が展示されている)以上 3 つの展示は、いずれも、平和教育推進という博物館の設立趣意を体現するものとして、相互に必要不可欠な存在となっている。

企画展については、博物館の所蔵品以外に、各協力機関との共催で、いじめ問題等身近な問題を扱った展示をはじめ、難民や飢餓問題、子供の人権問題など、普遍的且つグローバルな視点から人権平和問題について考えることのできる展示を行っていく予定である。また、展示と共に、関連主題を取り上げた講演会や学習会等も随時行う予定である。さらに、博物館の周囲に広がる約 6000 坪の牧草地を、環境教育に有効利用する企画を検討中である。

〒961-0835 白河市白坂三輪台 245

Tel: 0248 28-2108

<http://www.am-j.or.jp>

muzeumau@maple.ocn.ne.jp

(学芸部 我妻英司氏より)

「対馬丸記念館」にお越しく下さい

その (全 2 回)

(その は、
ミュージの前号を御覧ください。)

財団法人対馬丸記念会元専門員 吉川由紀

(3) 遺族とのふれあい

記念会では、二〇〇二年度の予算で生存者の証言 V T R を制作していました。そこで二〇〇三年度は、遺品や遺影を集めながら遺族の証言をとっていくことにしました。

そんな中、ある遺品との出会いが私の「対馬丸観」を変えることになりました。財団に入って最初に手にした遺品は「名札」でした。犠牲者のお姉さんが「こんなものでい

いんですか」と持ってきてくださったのは、弟が着ていた服の左胸についていた布製の名札。住所と名前が書かれていて、「なくしてはいけないからと、戦後すぐ厚紙貼り付けて、唯一残った遺影と一緒にこれまで持ち続けました」とおっしゃいました。実は、対馬丸犠牲者たちの荷物は、一緒に那覇港を出港した別の船に乗っていて、長崎に無事届いていました。出迎えたこの子のおばさんは「せめて名札だけでも」と切り取り、服そのものは他の疎開者にあげてしまったというのです。物不足の時代がそうさせたのでした。

最近になって、この名札を展示するために厚紙から剥ぎ取る作業を業者をお願いしたところ、接着部分からでんぷんが検出されたというのです。戦後、九州のおばさんから受取ったこの薄い布でできた名札を、なくしてはいけないとご飯粒で厚紙にはりつけ、五九年間も持ち続けた遺族。残された者たちは、大切な家族が生きた証を必死で持ち続け、面影を残し続けようとしてきた。この遺品を手にしたとき、遺族たちの姿がはっきりと浮かんできました。

それまでの私にとって、対馬丸は「ブランド」でした。沖縄戦の悲惨さを象徴する、だれもが知るその悲劇性をもって、なんとなく理解していただけでした。しかし、遺族とのこうしたふれあいは、決して一つではない悲しみの形を、言葉にして記録し、共有していくことの意味を実感させられました。平和を創っていかうとするとき、犠牲者の数だけ存在する悲しみの中に身をおいて、悲しみに寄り添い、理不尽な形で人

生を終わらせたその仕組みを告発することが原点だということに、改めて気づかされました。

多くの遺族に会いました。また、六〇年目にして初めて語り始めた生存者にも会いました。この一年間ほど、毎日毎日初対面の相手と、その方の人生を振り返る重い会話を重ねたことなどありません。しかしこれは、対馬丸撃沈が決して特別なことではなく、あの時代沖縄に生きた人々の誰もが遭遇する可能性を持っていたことや、「戦争と平和」という切り口を超えた普遍性を見出す、大切な作業になりました。日常の中にある、喜ぶこと楽しむこと悲しむこと、愛し合うこと、そして生まれてくること生きること、死んでいくことの意味を問い直す、さまざまな要素を含んでいたのです。この遺族証言は、館内のモニターで三〇名分をみる事が出来ます。ぜひ触れてみてほしいと思います。

(4) 記念館がめざすもの

対馬丸記念館は二階建ての建物。屋上に立つと、ちょうど地面までの高さが対馬丸の甲板から海面までの高さに相当します。展示の入り口は階段を昇って二階にあります。これは学童疎開の子どもたちの、船に乗る無邪気な喜びを追体験してもらおうという趣向です。二階で対馬丸撃沈事件の全容を知ってもらい、一階に降りていくと犠牲者の追悼スペース、昭和十九年の教室再現、遺品・遺影の展示コーナーなどがあります。

常設展示面積は約二〇〇平方メートル。ひ

めゆり平和祈念資料館の四分の一です。とても広いとはいえないスペースを最大限に生かした展示の特徴は、吹き抜けの空間に、いかにしがみつき漂流している姿の復元をしたことや、証言と資料を同時にパネルに表現していったことです。ビジュアル的な表現を駆使しないと飽きてしまうという助言を多方面からいただき、復元物やイラスト、映像などを多用しました。また、従来の資料館のように証言を読ませるスペースが確保できないことから、ひとつのパネルの中に客観的資料と証言(人々の思い)も同時に表現することにしました。頭と心の両方でこの事実を受け止めてほしいという狙いもありました。解説文や資料のキャプションにルビをふり難解な語句を極力避け、小学校高学年の子どもでも理解できるようにしました。やはり犠牲になった子どもたちと同世代の、今を生きる子どもたちに、等身大であの時代を感じ、学んでほしいという思いがあったからです。

展示のテーマは「子どもと戦争」ですが、私はむしろ大人の皆さんに見てほしいと思っています。この時代を形成している責任は今を生きる大人にあり「対馬丸を繰り返さない」という決意を新たにすべきなのは、私たち大人の側だと思ふからです。また、対馬丸によって大切な家族を失った遺族たちも、あの時代を形成した一人として、それぞれの戦争責任を認識することも必要ではないかと思ひます。「一億総懺悔」という意味ではなく、何が誤りだったのか学ぼうという真摯な姿勢に立つことが、二度と同じ誤りを繰り返さないことにつながると思ふからです。記念館にぜひお越し

ただき、それぞれの想像力で海底にいる対馬丸犠牲者に思いを寄せていただければと思います。

(きぼうの家のホームページより)

Tel & Fax:098-941-3515

海外のニュース

第五回平和博物館国際会議に参加して

平和資料館「草の家」 山根和代

第五回平和博物館国際会議が、スペインのゲルニカ平和博物館で5月1日から6日まで開催された。平和博物館国際会議について簡単に触れると、第一回は1992年にイギリスのブラッドフォード大学で開催され、第二回目は1995年オーストリアのシュライニング、第三回目は大阪国際平和センターと京都の立命館大学国際平和ミュージアム、第四回はベルギーのオステンドで開催された。ゲルニカ平和博物館は、スペイン北部のバスク地方にあるゲルニカに2002年に開館された。ゲルニカは、1937年4月26日にフランコ軍を支援するドイツ空軍の爆撃で破壊され、多くの市民が死亡した。その衝撃を受けて描いたピカソの代表的な絵画作品である「ゲルニカ」は、戦争の惨禍をテーマにしており、国際的に反戦と平和のシンボルになっている。ゲルニカ平和博物館は、単に歴史的事実に関する展示をするだけでなく、人々が様々な紛争を平和的に解決できるように教育することを目的にしている。

今回の国際会議の主な目的は、平和博物館、戦争・平和記念館、人権博物館、反戦博物館、歴史博物館などに関わる人々が、

「平和の文化」の普及のために交流をし、1992年に創られた平和博物館国際ネットワークを強化することであった。会議のテーマは、「平和博物館：記憶、和解、芸術、平和への貢献」で、次の三つの内容で話し合われた。(1) 芸術の平和の文化への貢献 (2) 世界の和解の種を蒔く平和博物館 (3) 平和な世界を築く際、重要な役割を果たす記憶について、である。国際会議には28カ国から約140人の参加者があり、英語、スペイン語、バスク語が使用された。日本からは11人参加し、立命館大学国際平和ミュージアムの安齋育郎館長が、「立命館大学国際平和ミュージアムのリニューアル・プロジェクト、原爆忌全国俳句大会、および憲法9条メッセージ・プロジェクトの紹介 芸術の役割を重点に」、国際平和ミュージアム友の会会長の川端康郎氏が「『悪魔の飽食』混声合唱の国内外での活動と『世界の子も平和像・京都』建立の取り組み」山口良子氏が「同志社中学校における平和教育」、立命館大学の東自由里教授が「沖縄の佐喜真美術館」、札幌学院大学の坪井主税教授が「和解のための二つの博物館：花岡とリバプール」、大阪女学院大学の奥本京子助教授が「地域における和解でドラマが果たす役割：パックス・パシフィカのホーボノボ」、ブラッドフォード大学大学院生の野上由美子氏が「記憶を次の世代にどのように伝えていくことができるのか？ 広島と長崎」、フォトジャーナリストの矢嶋宰氏が「ピースロード：平和と人権のためのワークショップ」(韓国の「ナムの家」における日韓大学生の交流) 平和資料館「草の家」事務局長の金英丸氏が「東アジア共通の歴史認識を目指して 歴史教科書と『反日』

デモ」、山根和代が「日本の平和博物館の特徴」を発表し、また第五福竜丸展示館の藤田秀雄氏(立正大学名誉教授)が、聴衆席から様々な発言をされた。

3つの分科会があり、「芸術と平和」の分科会では、平和な世界を築くことが、人間の創造性を発揮する最大の目的であり、芸術が平和の構築、和解、相互理解に果たす役割は大きいこと、多様な文化を表現した芸術を支持すること、2007年に第三回平和・芸術に関する国際会議を開催することなどが話し合われた。「和解の種を蒔く平和博物館」に関する分科会では、対立者が和解し、平和を築く上で、記憶が重要であること、しかし記念館の場合、どのような人々が取り上げられるべきなのか(犠牲者、平和主義者、侵略者、その他)が問題であること、記憶の展示をするだけでなく、未来志向の視点で記憶を取り上げる重要性などが話し合われた。「世界平和の構築のために記憶が果たす役割の重要性」に関する分科会では、歴史的出来事の批判的分析の必要性、勝者ではなく犠牲者の視点でいかに歴史を記述していくのか、過去の記憶と現在、未来を関連付ける際、平和博物館が果たす役割が大きいこと、平和の構築のために行動をする場としての平和博物館、記憶を記録し、よりよい未来の実現のために生かすことなどが話し合われた。

様々な報告や取り組みの中で、印象的なものとして、オーストラリアの画家、ウィリアム、ケリー氏の企画で、参加者全員が音楽や朗読を聴きながらろうそくに火を灯していった。マハトマ・ガンジー、マルティン・ルーサー・キング、ヘルマン・ヘッセ、ケーテ・コルヴィッツ、ジョン・レノ

ンなどの偉大な先人から知恵を学び、私達が進むべき道を考えていく取り組みだが、戦争犠牲者の追悼の際にもこのような取り組みをすることができるのではないかと思った。

またチリのサンティアゴの作家や芸術家が1996年に集まって、芸術を通した平和の取り組みを始めた。サンティアゴの政府の建物は、1973年9月11日に軍人ピノチエト（クーデターでアジェンデ政権を倒し、1974年から1989年まで大統領）の命令でチリの軍隊によって爆撃された。2001年3月に、芸術祭（特に詩）の取り組みとして、ヘリコプターからその政府の建物に向けて、ロケット弾ではなく、子どもが書いた詩を載せたしおりを10万枚撒く取り組みをした。これをきっかけに、空爆をされた他国の都市でも取り組みをすることにした。2000年8月には、バルカン紛争で空爆されたクロアチアのドウブロヴニクで、2004年8月には、スペインのゲルニカで同じ取り組みをした。この「詩の空爆」は、予告なしに行なったが、大量のしおりを撒いたにもかかわらず、すべて拾われ、一枚も路上に残っていなかったそうである。今後、ドイツのドレスデン、日本の広島と長崎でも同様の取り組みをしたいそうである。これは芸術家の創造的な取り組みだが、ビデオを見ると、詩を載せたしおりを拾って読んだ人が泣き出す場面もあり、どれだけ多くの人々が心から平和を願っているのかが伝わってきた。

また2001年9月に国連で、9月21日を「国際的に停戦をし、暴力のない日」として「国際平和の日」(the UN International Day of Peace)と定めること

が決定された。イギリスの映画制作者であるジェレミー・ギリリー氏が、著名人、芸術家、NGOに働きかけて実現をしたが、その記録映画であるPeace One Dayを鑑賞し、ギリリー氏の話聞いた。その後、世界の平和博物館でも、毎年9月21日に様々な平和の取り組みをしようということが決議された。まだ映画の日本語版はないが、英語版に関しては、下記に問い合わせると入手可能である。

Peace One Day, Block D, The Old Truman Brewery, 91 Brick Lane, London, E16QL, UK

Tel: +44(0)207 456 9180 Fax: +44 (0)207 375 2007 Email: info@peaceoneday.org
www.peaceoneday.org

日本国憲法第9条を世界に：チャック・オーバービー氏の発言

平和博物館国際会議には、オハイオ大学名誉教授のチャック・オーバービー氏が杖について参加し、日本国憲法第9条の重要性、普遍性について力強い発言をされた。湾岸戦争を機に「第9条の会」を結成し、すべての国の憲法に9条の精神を取り入れることを目指している。スペイン領カナリア諸島のテルデ市には1996年に「広島・長崎広場」ができ、「平和のモニュメント」には9条がスペイン語で刻まれているという。私は国際平和研究学会に所属しているが、マケドニアのスコピエ大学のスペトミール・スカーリック教授と、妻のオルガさん（バルカン平和研究センター所長）と知り合いである。スカーリック教授は、バルカンの平和実現のために日本で日本国憲法を

研究し、9条の精神が必要であると考え、マケドニアで本を出版されている。国際平和研究学会の大会が2004年にハンガリーのショブロンで開催されたが、その際ドイツ人の平和研究者であるクラウス・シリヒトマン氏が、9条の重要性について熱心に話をされ、心強く思った。また「日独平和フォーラム」のハンス・ピーター・リヒター氏も、ドイツで9条の理念を紹介されている。彼は現在ドイツの各地で沖縄に関する展示をし、この夏、広島、長崎、高知を訪問したいというメールが来た。このように、9条は海外で輝きが増している。武力で問題は解決しないこと、紛争の平和的解決が重要であることを、世界の市民が9条を紹介しながら多くの人々にアピールしていることを、もっと多くの日本人が知る必要があると思う。

平和博物館と日本国憲法の今日的意義

日本の平和博物館の数は、世界で一番多い。世界には100以上の平和博物館があり、日本にはその半分位存在している。2001年に約50館の平和博物館の調査をしたが、公立の平和博物館では日本の加害の側面について展示をしている所が、少ないということが明らかになった。しかし大阪国際平和センターでは、様々な考えの団体の代表者が運営協力懇談会（関西大学名誉教授小山仁示氏が座長）に所属し、様々な意見を反映させている。また市民ネットワークが形成され、市民の声が反映されて加害の展示がなされている。段々言論の自由がなくなり、憲法で保障された基本的な権利が蹂躪されているが、市民が声をあげてバ

ランスの取れた展示をしている大阪国際平和センターは、海外の平和研究者や平和博物館関係者に非常に高く評価されている。日本国憲法を変えようとする動きは、歴史教科書の内容を変える動き、平和博物館の展示に対する攻撃と一体のものであり、日本が戦争をすることができるように準備をしていると言っても過言ではないと思う。日本国憲法では紛争を武力で解決するのではなく、平和的に解決する事を明記している。アメリカが国際法に違反して、イラクで戦争をし、武力行使をしている今日、日本国憲法の今日的意義はますます重要になってきていると思う。

（この記事は、法学館のウェブサイトにも5月30日に掲載されました）

平和のための博物館国際ネットワーク

ゲルニカにおける国際会議では、ネットワークの体制について、話し合われました。これまで International Network of Peace Museums（平和博物館国際ネットワーク）と呼んでいましたが、もっと幅広く博物館を含めるために International Network of Museums for Peace（平和のための博物館国際ネットワーク）と呼ぶことにしました。またロゴを提案したい方は、7月31日までに、「草の家」の金英丸さんにお知らせください。

次の国際会議は、ウズベク共和国のサマルカンドにある国際平和・連帯博物館で開催の予定です。詳細は、決まり次第お知らせします。



平和のための博物館国際ネットワークの
コーディネーター

Dr. Peter van den Dunten

国際ネットワークの代表には、Dr. Peter van den Dungen、執行委員会の役員が10名、諮問委員会の役員が11名選出されました。

執行委員は次の通りです。

Gerard Lössbroek (欧)Iratxe Momoitio (欧)Joke Lenten (欧)Roger Mayou (欧)
Carol Rank (欧)
Zulfiqar Ali (アジア)Maria Sancho (アジア)
金英丸(アジア)
Steve Fryburg (米)Joyce Apsel (米)
James makola (アフリカ)

諮問委員は次の通りです。

Carolyn Rapkievian (北米)
Jean de Wandelaer (南米)
Clive Barrett (欧)Tomislav Sola (欧)Anne
Cecile Kjelling (欧)
安齋育郎(アジア)山根和代(アジア)Anatoly
Ionesov (アジア)
Wiliam Kelly (オセアニア)

Mike Gondwe (アフリカ)

ヒロシマ・ナガサキ原爆展示：ニュージーランド

ニュージーランドにおいて、下記の予定でヒロシマ・ナガサキ原爆展示が行われます。軍事博物館でも、原爆展をする予定です。

2005

Southland Museum, Invercargill : 3月
25日- 4月17日
Te Manawa Museum & Science Centre,
Palmerston North : 5月6 – 29日
Army Museum, Waiouru : 6月4 - 26日
場所未定 : 7月2 - 24日
Auckland Museum : 8月5 - 28日
Millennium Museum, Blenheim : 9月3 -
18日
Waikato Museum, Hamilton : 10月1 - 16
日
Puke Ariki Museum, New Plymouth : 11
月5 - 19日
Otago Museum, Dunedin (TBC) : 11月
26日 12月4日

2006

Ashburton Art Gallery : 3月初旬
Uxbridge Art Gallery, Howick : 4月中旬
(Kate Dewes さんより)



ゲルニカ平和博物館館長の Iratxe Momoitioさんと、立命館大学国際平和ミュージアムの安齋育郎館長

フランスの展示物作製計画：広島、 チェルノブイリ、そしてその後

最近のスマトラ沖津波のような天災や、いまだに続く紛争や戦争により、世界各地で今、数多くの人々が苦境に陥っている。世界の安定、安全および平和に対する視点を改めて捉え直し、地球の未来に向かって各自が責任を分かち合うことが、歴史上かつてないほど重要な課題となっている。国際原子力機関事務局長モハメッド・エルバラデイ博士が次のように訴えている。“人類を脅かす核戦争の危険を人々に認識させ、これに代わる道を示しコミットメントの手段を提供するため、社会のあらゆる層の人々を世界の安全に関する社会的対話に参加させることが必要不可欠である。”

人類が自身を苦しめ続けるかぎり、同時に地球環境と天然資源も危険に晒されるのである。

このような環境のもとで、人類はエネルギー利用・軍事利用を問わず、核技術への投資を続けるべきであろうか？ 増大する核のセキュリティリスクはどう考えれば

よいのであろうか。人類は核という無謀なルーレット遊びをすることで、病弱な地球の平和と安全をさらに危険に晒しているのではないだろうか。「予防戦争：最高の犯罪」(2003年8月出版)の著者ノーム・チョムスキーの言葉を借りると、人類は“国際法の新しい標準”が通用する危険な時代に入り、それによると戦争は最後の手段ではなく、世界の安全を守るという理由で受け入れられる。

“親切な言葉だけよりも、それに銃を加えるほうが得るところが大きい”とドナルド・ラムスフェルドは、シカゴのギャング、アルカポーネの言葉を引用して、イラクについての質問に2004年に答えている。

1945年の広島・長崎原爆投下(2005年は60周年となる)などの戦争行為や、1986年チェルノブイリ原発事故(2006年は20周年となる)などの災害は、写真家や芸術家による観察、記録、作品制作の対象となる。こうした惨事をより深く理解できるのは、その目撃者にほかならない。例えば、時をおいて現れる惨事の影響を記録した山端庸介、東松照明の作品は、来たるべき世代への証拠として消えない跡を残すのである。

本プロジェクトでは国際機関や各種協会、その他情報源より提供された有意義かつ多様な写真作品が紹介される。また、世界的に有名な新聞、雑誌(Geo, Le Monde, El Mundo, Newsweek, The Times)

など独立媒体のオーガナイズにより、著名な写真家・芸術家が写真作品を新規に制作することも、本プロジェクトの大きな目的である。

本プロジェクトの主な目的は、地球を受け継ぎ未来を背負って立つ若い世代を中心に、広く一般の人々に核技術の歴史とその多様な用途を示し、核開発の孕む危険を知らしめることにある。また、このテーマの研究を促進し、異なった文化・民族間の建設的な対話を促すことも目的とする。

展覧会は巡回展とし、既存の展覧会場だけでなく、屋外の公共スペースなど特設会場でも開催される。展覧会の規模は、将来より小さな会場（市民ホール、学校、大学等）でも開催できるようフレキシブルに工夫されている。展覧会と同時に、より広くセレクトされたオリジナル作品（画像、評論、インタビュー等）をまとめた本が発行される。そのほか、教育用DVD、インターネットアーカイブ、チャットサイトなどが本プロジェクトの一環として予定され、研究と対話の手段として一般に提供される。

プロジェクトの詳細

1) 展覧会： 既存の歴史的な作品

広島原爆以来、核技術の民間利用と軍事利用の歴史に跡を残した出来事に取り組んできた著名な写真家の作品を展示する。同時に、事実描写よりもむしろ感動を象徴し表現する創造的な写真作品も展示する。

2) 展覧会： 新作品

既存の著名作品を一堂に集めた展覧会により、過去の検証が可能となる。一方、現在と未来を見つめることも大切である。そのため、今も核の被害を受けているあるいは将来的な核開発の危険に晒される地域、コミュニティまたは個人をテーマとして、

多くの写真家、芸術家に作品を依頼し、展覧会の後半に展示する。選定にあたり、テーマに関する写真家の造詣の深さだけでなく、バックグラウンドも考慮される。ケースによってはジャーナリストや作家が同じテーマを論じたり、写真家と共同制作する。

3) 展覧会： マルチメディアプレゼンテーション

展覧会に不可欠な要素として、テーマをより広くカバーする写真と資料をマルチメディアでプレゼンテーションする（最先端の大型平面スクリーンを予定）。広島・長崎原爆投下に至る決定の過程を深く解明したり、チェルノブイリ原発事故の科学的説明とその政治的な背景を理解するなど、展示作品をより幅広い国際情勢との関わりから解説することを目的とする。著名な政治家や科学者がプレゼンテーションに参加し、発言する。

4) 本（展覧会カタログ）

展覧会カタログを出版する。出版者が編集チームに加わり、カタログの内容（図版と文章）やデザインについても発言権を持つ。カタログは多数の外国語に訳され、展覧会の開幕にともない書店とインターネットで販売する。売上げの一部は巡回費用に充当され、将来の追加開催の財源となる。

5) DVD

写真、評論、インタビュー、歴史資料、ビデオ、ウェブサイトなど本プロジェクトの全材料を盛り込んだ教育用DVDが企画されている。DVDは展覧会カタログ付録とし、学生が本プロジェクトに寄与した人々、写真家、諸団体との連携を可能にす

る。

6) インターネット

完全な自動サイトで、FLASH と HTML によりデザイン、アップデートされる。

a) アーカイブ： 本プロジェクトのために使用、検討された全材料（オーディオ、ビジュアル）が検索できるイージーアクセスなアーカイブ。 カプションとリンクにより写真作品と歴史資料に関する情報が直ちに得られ、著者や写真家の連絡先も記される。 本サイトは閲覧用のため、画像は低い解像度でのみダウンロードできる。

b) チャットサイト： 世界中の学生、学校、各種協会、諸機関を結ぶディスカッショングループを構成し、リアルタイムで討論する（サウンドと画像）。

c) リンク： 本プロジェクトに協力する Imperial War Museum, GB など関連機関とのリンクや、テーマに関連するコミュニティや民族を支援するウェブサイトの情報とリンク。

d) 展覧会の双方向型プレゼンテーション： 展示会のバーチャルツアーができ、写真作品や資料の詳細を見たり、世界中の民族が経験を語るインタビューを聞くことができる。

7) ドキュメンタリー映画 / テレビシリーズ

番組製作会社やテレビ局と共同して、短編および / または長編のドキュメンタリー映画の製作を希望し、展覧会と同時に映画館やテレビで上映、放映する。

a) 15 分から 20 分の短編映画シリーズで、本プロジェクトの成り立ちを紹介する。世界各地で核開発、核技術の影響を受けた

人々を追う写真家達の活動を紹介する。

b) 広島原爆投下から現代、未来に及ぶ本プロジェクトの全側面を紹介する長編映画。本プロジェクトにかかるすべてのリサーチや素材をフルに活用し、詳細にわたる長編ドキュメンタリー。

8) フィーチャーストーリー / 新聞、雑誌によるプロモーション

世界のメディアから写真編集者を招いた編集委員会を立ち上げ、複製自由の画像と資料を本プロジェクトのプロモーションツールとして厳選する。これを有名雑誌・新聞に掲載し、展覧会入場者数とウェブサイト、ドキュメンタリー視聴者数の増加につなげる。

Ashley Woods Promotion

Photographic marketing and sales

28 rue des Petites Ecuries

75010, Paris, France

M° Bonne Nouvelle (Metro Line 8)

Tel: ++33 1 55 77 21 73

Cell: ++33 6 76 499 840

Fax: ++33 1 55 77 20 35

mail@ashleywoods.com

www.ashleywoods.com

国内ネットワークのニュース

太平洋戦史館：岩手

専務理事の岩淵宣照氏は、戦史館に学校単位で見学に来る子ども達や教師に、第二次世界大戦と今日日本が加担しているイラク戦争が、無関係でないことを話しました。感想文で「この先ぼく達が大きくなって戦

争が起きそうになったら、戦争反対！と強く呼びかけたい」というような文章が目につくようになりました。

12月12日から阿部知子衆議院議員（社民党）たちと、西部ニューギニアを視察し、日本兵の白骨死体を確認しました。3月には政府から関係者もインドネシア共和国パプア州に行き、遺骨収集をしてきました。5月30日に千鳥ヶ淵戦没者墓地に納骨されます。

（戦史館だより No.48、50より）

Tel: 0197-52-3000 Fax: 0197-52-4575

埼玉県平和資料館

平和への思いやメッセージを込めた絵画・短歌を県民から募集し、展示する平和文化展が、2004年12月18日～2005年1月23日の会期で開催されました。

テーマ展 「海外からの引揚げと復員 - 埼玉の場合を中心に - 」が、失われつつある戦争による苦難の記憶を思い起こす趣旨により、企画展示室で2005年2月5日～3月6日の会期で開催されました。

「青い目の人形物語と所蔵資料展」が企画展示室で2005年4月23日～6月12日の会期で開催されています。ここでは、オリジナルアニメーション映画「青い目の人形物語」と日本に青い目の人形が贈られた背景について紹介するとともに、2004年度に県民から寄せられた資料を展示しています。

第2回平和朗読会が講堂で2005年1月29日に開かれました。坂戸市朗読サービグループ「カナリア」による茨木のり子作「私が一番きれいだったとき」、野坂昭如作

「火垂る墓」、海老名香葉子作「ことしの牡丹はよい牡丹」などの朗読と、手島美江子さんによる「さくら変奏曲」などのフルート独奏がありました。

映画会が講堂で開かれ、2004年12月11日には「とべとべひよこ」と「蒼い記憶」が、2005年1月15日には「おこりじぞう」と「マヤの一生」が、2月12日には「サヨナラはお乳の匂い」と「白旗の少女 琉子」が、3月19日には「原爆ドーム物語」と「はしれりゅう」が、4月9日には「とべとべひよこ」と「火垂るの墓」が、それぞれ上映されました。

特別映画会が講堂で開かれ、2004年11月14日には「ビルマの竖琴」が、2005年5月7日には「きけわだつみの声」が、それぞれ上映されました。

（「埼玉県平和博物館だより」35号・2005年3月15日発行より）

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

丸木美術館：埼玉・東松山市

『心』の出会い展 - 万年山えつ子と仲間たち、そして出会った人々 - が2004年11月28日～2005年2月18日の会期で開催されました。これは、万年山えつ子が主宰する自浄アトリエ「カルディア会」の人たちの展覧会でした。

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ美術家会議の会員で近年亡くなった3人の画家の展覧会「福田恒太・高頭祥八・原之夫追悼展」が2005年2月22日～5月20日の会期で開催されました。

（「財団法人原爆の図丸木美術館ニュース」

81号・2004年12月25日発行、82号・2005年4月22日発行より)

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/~marukim/sn/top/kikaku.htm>

東京大空襲・戦災資料センター

「シンポジウム 都市空襲を考える 第3回」が2004年12月4日に深川江戸資料館で開かれ、東京国際大学教授の前田哲男さんの「アジアに於ける戦略爆撃の開幕」、建築家の三沢浩さんの「あるアメリカの建築家と東京大空襲」、茨城大学名誉教授の荒井信一さんの「ドイツにおける空襲の記憶」の3報告があり、その後質疑討論がありました。

「東京大空襲・戦災資料センター開館3周年 東京大空襲60周年のつどい」が2005年3月5日に江東区総合区民センターで開かれ、作家の高木敏子さんの講演「『ガラスのうさぎ』と私」、早乙女勝元館長の「東京大空襲60年の歩みと今考えること」、その他の発表などがありました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/>

江戸東京博物館

第二企画展「東京空襲60年 - 犠牲者の軌跡 - 」が2005年1月14日～年4月10日の会期でひらかれました。これは、犠牲者の遭難軌跡を地図上で現し、当日の人の行動を視覚的に捉えるとともに、犠牲になった方の遺品、空襲を記録した絵画・写真なども合わせて展示し、空襲の実態にせまるものです。新資料に基づく遭難軌跡の解明は、江戸東京博物館・すみだ郷土文化

資料館・豊島区郷土資料館の共同研究の成果によるものです。

Tel:03-3626-9974

<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>

第6回学童疎開展

第6回語り継ぐ学童疎開展が、全国疎開学童連絡協議会の主催、江戸東京博物館などの共催により、江戸東京博物館の1階で2005年3月8日～13日の会期で開催されました。これは全国の学童疎開の様子を伝えるとともに、疎開学童の死や遺された孤児の問題を特に取り上げ、さらに学童疎開を描いた絵も展示しました。

すみだ郷土文化資料館：東京

企画展「東京空襲60年 - 3月10日の記憶 - 」が3階の企画展示室で2005年1月22日～4月10日の会期で開かれました。これは2003年度と2004年度の2か年にわたり、空襲の直接体験者から募集した、体験を自ら描いた絵画を展示したものです。あわせて、江戸東京博物館・豊島区立郷土資料館との共同調査の成果である、空襲犠牲者の居住地・死亡場所を示した被災地図も1階に展示しました。2003年度に募集した体験画を収録した『あの日を忘れない - 描かれた東京大空襲 - 』が柏書房から市販されています。

Tel:03-5619-7034 Fax:03-3625-3431

<http://www.city.sumida.tokyo.jp/~kyoudo-bunka/index.htm>

豊島区立郷土資料館：東京

常設展の収蔵展示室部分の一部で、2005年4月9日から、「東京空襲60年」の展示

がおこなわれています。ここでは、豊島区の1945年4月13日の空襲関係被災品、空襲の体験画、鍋木正義の軍事郵便が展示されています。本格的な企画展「東京空襲60年 - 記憶と記録 - 」は7月27日から開催されます。

『豊島区立郷土資料館調査報告書 第17集 戦地からの手紙』が2005年3月25日に刊行されました。これは、1938年、豊島区雑司が谷から弘前連隊に入営し、日中戦争下の「満州」へ出征、アジア太平洋戦争が始まると、南方戦線へ再召集され、ビルマで亡くなった鍋木正義が、家族に送った手紙・はがき、約300通を翻刻したものです。

研究紀要『生活と文化』第14号が、2004年12月1日に発行され、青木哲夫さんの「桐生悠々『関東防空大演習を嗟う』の論理と歴史的意味」などが収録されています。Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271
<http://www.museum.toshima.tokyo.jp/top.html>

港区立港郷土資料館：東京

企画展「永井荷風と東京大空襲」が2005年2月22日～3月21日の会期で開かれました。これは永井荷風については東京大空襲の被災も含めて、その生涯を紹介する資料展示するとともに、東京大空襲を中心とする太平洋戦争関係の資料をも展示したものです。

Tel:03-3452-4966

<http://www2.bun.co.jp/~kyoiku/kyoiku/shisetsu/kyodo/index.html>

パルテノン多摩：東京

連続講演「記憶の継承と断絶」が2005年3月6日～20日にかけて5回にわたり開催されました。そのうち、第1回では静岡大学助教授の矢野敬一さんが「メディアの中の記憶」について、第2回では東京大学教授の木下直之さんが「記憶と表象」について、第3回では日本女子大学助手の野上元さんが「『戦争の記憶』の現代」について、それぞれ講演しました。

Tel:042-375-1414

<http://www.parthenon.or.jp/>

早稲田大学 大学史資料センター：東京・新宿区

展示会「一九四三年晩秋 最後の早慶戦」が、早稲田大学会津八一記念博物館1階企画展示室で2005年3月25日～4月23日の会期で開催されました。これは、アジア太平洋戦争の敗戦から60年にあたり、特攻により24歳の人生に終止符を打った近藤清を中心に、「最後の早慶戦」(1943年10月16日開催)を振り返るものです。図録も発行されました。

Tel:03-5286-1814 Fax:03-5286-1815

<http://www.waseda.jp/archives/sub07.html>

高麗博物館：東京・新宿区

「日本・韓国・朝鮮 切手と紙幣展」が2005年2月27日～5月8日の会期で開催されました。これは日本・韓国・朝鮮の切手と紙幣を展示して、それぞれの国の歴史と文化および、それぞれの国の関係の歴史を伝えるものです。記念講演会は2月27日に開かれ、滋賀県立大学名誉教授の姜徳

相さんが「紙幣にみる日本近代の歴史」と題して講演しました。

Tel:03-5272-3510 Fax:03-5272-3510

<http://www.40net.jp/~kourai/>

Bunkamura ザ・ミュージアム：東京・渋谷区

写真展「地球を生きる子どもたち」が2005年2月5日～3月21日の会期で開催されました。これは、19世紀末から現在まで、写真家が記録した子どもの写真を展示することによって、世界中の子どもたちの幸福と地球の未来を考えるものです。図録も発行されました。

Tel:03-5777-8600

<http://www.bunkamura.co.jp/>

切手の博物館：東京・豊島区

特別展「切手と戦争展 - もうひとつの昭和戦史 - 」が、2005年1月26日～30日の会期で開催されました。これは、郵便学者で「切手の博物館」副館長の内藤陽介さんの代表作 Japan and the 15Years'War 1931-1945 を中心とした構成で、切手や郵便を通じて、戦争の時代をリアルに伝えるものでした。

Tel: 03-5951-3331 Fax:03-5951-3332

<http://www.yushu.or.jp/museum/>

国立国会図書館

第135回常設展示「戦時下の出版」が東京本館で2005年1月20日～3月15日の会期で開催されました。ここでは、戦時下の出版体制、戦時下の推薦図書、終戦前後の出版物について展示されました。

Tel:03-3581-2331

<http://www.ndl.go.jp/>

神奈川県立地球市民かながわプラザ

アフガニスタンの人びとの生活を捉えた写真展「アフガン夜明けの国」と、「イラクの子どもたちの絵画展」が2005年1月8日～16日の会期で開催されました。

「第13回カナガワビエンナーレ国際児童画展」が2005年4月23日～5月15日の会期で開催されました。

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2945

<http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>

日本新聞博物館：神奈川・横浜市

N.Y.デーリー・ニューズ写真コレクションから日中戦争、太平洋戦争、朝鮮戦争の写真を展示する企画展「写真が伝えた戦争」が企画展示室で、2005年3月25日～6月26日の会期で開催されています。図録も刊行されています。4月10日に、記念シンポジウム「写真は戦争をどう伝えたか」が開かれました。

Tel:045-661-2040 Fax:045-661-2029

<http://www.pressnet.or.jp/newspark/>

川崎市平和館

企画展「戦場ジャーナリスト 橋田信介の世界」が2005年1月8日～23日の会期で、企画展「身近な平和を考えよう - 子どもの遊ぶ権利について - 」が2月26日～3月6日の会期で、それぞれ開かれました。

Tel:044-433-0171

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25heiwa/home/heiwa.htm>

松代大本営の保存をすすめる会：長野

日本国憲法と教育基本法「改正」の動きが急速に活発化しています。地下壕が語りかける非戦の声を受け止め、次世代に伝えるために、「改正」のねらいと動向について特集しました。松代大本営の保存をすすめる会幹事の幅 国洋氏が「日本国憲法について」、また東京大学大学院教授 高橋 哲哉氏が、「教育基本法：平和と平等をあきらめない～憲法・教育基本法の危機が意味するもの」と題した特集が、ニュース「保存運動」第 169 号に載せられています。

二月二十七日(日)、二〇〇五年度の定期総会が行われました。以下、総会の要約です。

2004 年度活動のまとめ

「エコール・ド・まつしろ」で地下壕のガイドを引き受けるなど、地元との協力協同をめざした。祈念館建設では残念ながら具体的な進展は見られないが、主催したイベント(「第八回憲法の森デー」「第一六回 11・11 松代大本営工事朝鮮人・日本人犠牲者追悼のつどい」「着工 60 周年記念シンポジウム」)などを通して、関わっている人たちをつなぎ、またマスコミを通してその様子が発信された。人のつながりと関わりを大切にした「場づくり」と「情報発信」は進んだといえる。

ながのまちづくり推進事業で NPO としての活動が認められ、長野市からの助成金を受けることができた。

祈念館の企画書はほぼできているが、完成とは言えず、新年度に持ち越すことになった。

2005 年度活動方針

(以下、議案書より抜粋)

戦後六〇年、松代大本営も六〇年という節目の年。昨年に続き「場づくり」を通して祈念館本来の役割を果たしていく。

NPO 松代大本営平和祈念館に関わるすべての人・団体が互いに信頼しあい気持ちの一つにして事業を進めたい。

具体的には

(1)建設に向けた実務を進めます。

企画書を仕上げます。

建設実務プロジェクトチームを中心に、市との話し合いや作業をすすめます。

政の関連各課との話し合いや情報交換の場を持ちます。

必要に応じて専門委員会などを設置します。

(2)戦争遺跡「松代大本営」を活かすまちづくりと人の交流をすすめます。

若者がいきいきと参加する「活動の場」となることをめざします。

地元の文化財ボランティアの方々との交流がすすむことをめざします。

「エコール・ド・まつしろ」や松代で行われる各種イベントなどにも、積極的に関わりながら、地元との協力共同ができる状況づくりをすすめます。

(3)将来のあるべき姿を見据え、「公益性」と「継続性」を重視しながら NPO・「松代大本営の保存をすすめる会」・「松代に平和祈念館をつくる会」をはじめ構成団体の協力協同を一層すすめます。

(1)将来の運営についての話し合いをすすめる、関係団体間での認識を一致させます。

(2)ニュース発行や実務作業など可能な限り合理化できるよう検討します。

(4)会員拡大と財政活動

イベントなどを通じて会員の拡大をはか

ります。会費納入率のアップや運動募金・建設募金の増加をめざします。

(5) 運営体制を強化し、着実に運動をすすめます。

理事の執行体制を強化します。
(文責・会報部西条:「保存運動 No.171」)
〒380-0928 長野市若里 3-5-5 きぼうの家
松代大本営の保存をすすめる会
TEL/FAX 026-228-8415

<http://homepage3.nifty.com/kibonoie/>

静岡平和資料センター：静岡市

所蔵品展「戦時下のこどもたち」が2005年2月18日～6月26日の会期で開かれています。こどもたちのくらし、学童集団疎開、学校の空襲などの関係資料が展示されています。

(「明日へ - 静岡平和資料館をつくる会ニュースレター」61号・2005年3月1日発行より)

Tel:054-247-9641 Fax:054-247-9641
<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会：愛知・名古屋市

「平和のための戦争資料館展」が名古屋市民ギャラリー矢田で2005年4月27日～5月8日の会期で開催されました。準備会は1993年以降、愛知県と名古屋市に対して戦争資料館を建設するよう働きかけてきました。その結果、愛知県では戦争資料館の構想がまとまり、戦争資料の収集も進んでいます。しかし、県・市の財政難のため施設建設のメドがたっていません。これを打開するために、今回、愛知県と名古屋市が

共同で設置した「戦争に関する資料館検討委員会」の報告書にそった戦争資料館のモデル展として、「平和のための戦争資料館展」が試行的に開かれました。

Tel:052-962-0136 Fax:052-962-0138
<http://www.memorial-aichi.jp/>

立命館大学国際平和ミュージアム

2005年4月に常設展示のリニューアルが完成し、従来の地下の展示室が、15年戦争と現代の戦争の展示となり、新設の2階の展示室で、平和創造の展示がおこなわれています。また、1月に国際平和メディア資料室が1階に開設されました。

特別展「ビキニ水爆被災50年展 - 放射能と人類 -」が1階の中野記念ホールで2004年10月28日～11月23日の会期で開催されました。これは第五福竜丸平和協会が制作した巡回展を受けたものです。開会初日の10月28日に記念講演会が創思館カンファレンスルームで開かれ、第五福竜丸平和協会事務局長の安田和也さんと早稲田大学大学院生の竹峰誠一郎さんが講演しました。

紀要『立命館平和研究』第6号が、2005年3月25日に発行され、2004年6月の国際シンポジウム「アジアにおける平和博物館の交流と協力」の報告と討論概要、平和のための博物館・市民ネットワーク第4回交流会での安田和也さんの報告などが収録されています。

柳原銀行記念資料館：京都市

企画展「『白丁』差別と衡平社運動」が2004年3月4日～4月16日の会期で開催されました。

Tel:075-371-8220

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/yanagin/>

大阪国際平和センター（ピースおおさか）

15年戦争期の絵本、紙芝居、絵画、俳句、小説、日記、葉書などを展示する、特別展「『戦争』はどう描かれたか」が、1階特別展示室で2004年12月7日～2005年2月10日の会期で開催されました。

1920年代半ばから1950年代半ばまでの日本での博覧会の変化をたどり、戦争が博覧会に及ぼした影響を考える、特別展「戦争と博覧会」展が1階特別展示室で2005年2月22日～4月24日の会期で開催されました。

特別展「世界中の子どもたちが103」の原画展が1階特別展示室で5月17日～6月29日の会期で開催されています。2003年の暮れに、絵本作家たちが自分たちの表現手段で、平和のために何か発信できないだろうかと語り合い、1冊の絵本を作ることを決めました。今回の特別展では、この1冊の絵本が完成するまでのプロセスを紹介するとともに、その原画を展示するものです。

「12.8開戦の日 平和祈念事業」として、信濃デッサン館・無言館館主の窪島誠一郎さんによる講演「二つの美術館 - 生と死の画家たち -」が1階講堂で2004年12月4日に開かれました。

「3.13大阪大空襲 平和祈念事業」として、漫才師喜味こいしさんによる講演「戦争やって、何が残るんですか」と、座談会「平和モニュメントに託す平和のメッセージ」が1階講堂で2004年3月13日に開かれました。

「21世紀の平和を考えるセミナー」は、

第13回として報道写真家の石川文洋さんによる「カメラマンが見た戦争と平和」が2004年11月13日に、第14回として広島大学平和科学研究センター助手の篠田英朗さんによる「国際社会が平和活動にどう立ち向かうか」が2005年1月30日に、第15回としてアジア経済研究所参事の酒井啓子さんによる「イラク情勢」が3月27日に、それぞれ1階講堂で開催されました。

戦跡フィールドワーク「福島区空襲あとを訪ねる」が2005年3月20日に関西大学名誉教授の小山仁示さんらの案内で開かれました。

軍縮教育フォーラム「伝えよう軍縮、語ろう軍縮教育」が1階講堂で2004年11月20日に開催されました。

ピースフルステージ2004として、劇団東演による朗読劇「月光の夏」が1階講堂で2004年12月12日に開催されました。

映画上映会が1階講堂で2004年12月4日開かれ、「地球交響曲第4番」が上映されました。

（大阪国際センター「ピースおおさか」33号・2005年3月31日発行より）

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://mic.e-osaka.ne.jp/peace/>

吹田市平和祈念資料室：大阪

「平和映画会」を毎月開催していますが、2004年11月は1995年日本映画「人間の翼」を13・14・27・28日に、12月は1943年アメリカ映画「真珠湾攻撃」を11・12・18・19日に、2005年1月は1948年ソ連映画「シベリア物語」を8・9・22・23日に、2月は1940年アメリカ映画「海外特派員」を13・26・27日に、3月は1983年日本の

アニメ映画「はだしのゲン」を12・13・26・27日に、4月は1925年ソ連映画「戦艦ポチョムキン」を9・10・23・24日に、それぞれ上映しました。

Tel:06-6387-2593

<http://www.city.suita.osaka.jp/kobo/jinken/page/000338.shtml>

堺市立平和と人権資料館（フェニックス・ミュージアム）：大阪

ジョン・レノンが歌った「イマジン」をテーマに8人の漫画家が描いた平和のイメージを伝える反戦マンガを展示する、企画展「イマジン」反戦マンガ展が2005年4月1日～7月31日の会期で開催されています。

Tel: 072-270-8150 Fax: 072-270-8159

http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_jinken/index.html

水平社博物館

第8回特別展「戦争の中の水平社運動」が、2005年5月1日～8月31日の会期で開催されています。ここでは、戦時下で水平運動が戦争遂行体制を積極的に推進することによって部落差別を解消させようとしていますが、結局運動が戦争遂行体制に呑み込まれ、組織と運動が消滅する過程を伝えています。全国での動きとともに、それを積極的に進めた奈良県での動きも展示しています。さらに地元の掖上での戦争遂行体制に、運動関係者が関わっていることを示す資料も展示されています。

〒639-2244 奈良県御所市柏原 235-2

Tel:0745-62-5588 Fax:0745-64-2288

<http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/>

平和人権子どもセンター・教科書資料館：大阪堺市

1月22日には満州で使われた教科書と日本で使用された教科書の違い、また現行教科書との類似性などの学習会が開かれました。詳細は、「草の根」No. 26に載っています。その他「観光コースにないアジアウオッチング26」では、香港が紹介されています。雑誌「前夜」2号には、韓国の韓洪九氏が次のように評しておられます。「私たちは大きな博物館をまわったときよりも、市民の団体が作ったような小さな博物館に言ったときに、一層多くものを学びました。特に大阪・堺市にある教科書資料館では、本当に大きな衝撃と感動を受けました。あいた壁を探し出すことができないほど所狭しと展示があり、史料自体が大変よく整理されています。やはり平和博物館というものはこのように作らなければ、そう思いました。」

Tel: 072-229-4736 Fax: 072-227-1434

姫路市平和資料館：兵庫

収蔵品展「資料に見る当時の国内生活」が2階展示室で2005年1月12日～3月27日の会期により開催されました。

関連して、2月11日に高谷日出男さん、3月13日に田路信一さんが、それぞれ館内で「空襲体験談」を話されました。

学校生活や遊び、さらには戦争との関わり方など当時の子どもたちの姿を写真や実物資料などで振り返りながら戦争の惨禍を思い起すとともに後世に語り継ぐ趣旨で、企画展「太平洋戦争下の子どもたちの暮らし」が2階展示室で2005年4月8日～7月

3日の会期により開催されています。

関連して、駒田真紀さんによる「朗読会」が5月5日に開かれました。また多田絹子さんによる講演会「姫路空襲を語る」が6月22日に開催されます。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiryu/>

岡山空襲平和資料館が開館

2005年4月1日に岡山市春日町の市勤労者福祉センター1、2階のロビー内に開設されました。施設は市が無償提供し、運営はNPO法人「平和推進岡山市民協議会」がおこないます。2002年から、閉校した同市幸町の出石小学校の校舎で「岡山空襲出石資料館」を開いていましたが、跡地再開発事業のため移転したものです。焼け野原となった市街地の写真パネルや、当時の衣服などの生活用品計約90点を展示しています。館員が常駐し、展示品について見学者に説明します。

開館時間は午前10時～午後5時。休館は、毎週月、木曜日と祝日、年末年始。入場無料。

Tel:086-234-8323

広島平和記念資料館

2004年度第2回企画展「第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ」が、東館地下1階の展示室(5)で2005年2月15日～6月30日の会期で開催されています。

(広島平和文化センター「平和文化」156号

・2005年3月1日発行より)

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peacesite/>

hpcf@pcf.city.hiroshima.jp

広島県立美術館

研究紀要第8号が2005年3月31日に刊行されました。広島出身の洋画家南薫造は、陸軍省の囑託として中国中部に行った1939年3月29日から5月21日までの「従軍日記」を整理して残していますが、この日記の大部分が藤崎綾さんによって翻刻され、紀要に掲載されています。

Tel:082-221-6246

<http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/>

福山市人権平和資料館

アジアの子どもたちが描いた学校生活や遊びなどの絵日記を展示する、企画展「アジアの子どもたちの願い」が2005年4月28日～6月12日の会期で開催されています。

Tel:084-924-6789

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwashiryoukan/>

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

2005年度の企画展「しまってはいけない記憶 - 体験記にみる被爆の実相」が、地下1階の情報展示コーナーで2005年4月1日～2006年3月31日の会期で開催されています。

(広島平和文化センター「平和文化」156号

・2005年3月1日発行より)

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

鳴門市ドイツ館：徳島

ドイツ館では、常設展示のほか、企画展示の開催や、毎年10月には「ドイチェス・フェスト in なると」のイベントも開催されています。また、その周辺には、ドイツ橋、慰霊碑等の俘虜たちの残した遺跡や、その後のドイツとの交流で造られた「ばんどうの鐘」、ベートーヴェン「交響曲第九」日本初演の地を記念して平成9年に造られた「ベートーヴェン像」等の記念施設が点在しますので、ドイツ館にお越しの際は、周辺施設も併せてお楽しみください。

今後の予定は、次の通りです。

- 6月 4日(土)、6月 5日(日)
板東俘虜収容所紹介展(文化会館)
- 6月 4日(土)
ドイツワインの夕べ
- 6月 5日(日)～6月30日(木)
グリム童話イラスト原画展
- 7月 9日(土)
ドイツ・リートリサイタル
- 7月16日(土)
七夕コンサート
- 8月 7日(日)
NPO 法人鳴門「第九」を歌う会総会及びコンサート
- 8月13日(土)、8月14日(土)
ドイツビール・ワイン祭り
- 10月 1日(土)
全国フォーラム「ドイツ兵俘虜収容所を考える」
- 10月15日(土)～10月23日(日)
グリム童話木版画展
- 10月30日(日)

ドイチェス・フェスト in なると

- 11月 1日(火)～1月15日(日)
ハンゼンと徳島オーケストラ ～第九日本初演の真相～
- 11月 3日(木)～11月 6日(日)
ドイツ学術交流会
- 11月20日(日)～12月25日(日)
ドイツのクリスマス・マーケットフェアー
(ドイツ館のホームページより)
〒779-0225 徳島県鳴門市大麻町
松字東山田55番地の2
TEL(088)689-0099 FAX(088)689-0909
doitukan@city.naruto.lg.jp
<http://www.city.naruto.tokushima.jp/germanhouse/index.html>

平和資料館「草の家」：高知

事務局長 金英丸

草の家で活動する若者が中心になって、旧日本軍“慰安婦”問題の解決を求める集会、「12・4全国同時証言集会：消せない記憶 日本軍“慰安婦”被害女性を招いて」を開催しました。高知ではインドネシアの被害女性を描いたドキュメンタリー「マルディエムー彼女の人生に起きたこと」の上映、日本軍性奴隷問題に関するスライドショー、交流会などが行いました。同日には大雨にも関わらず若者を中心に約100名が参加しました。

平和憲法が危機に置かれているいま、草の家では平和憲法を分かりやすい言葉で広めるために「お国言葉で読む日本国憲法」の活動を始めました。故西森茂夫館長が書いた憲法前文や九条を、自分の故郷の方言で書き直して読む日本国憲法の朗読は大き

な反響を呼び、高知九条の会講演会でも朗読されました。

政治的圧力によるNHK番組の改ざん問題に対してNHK高知放送局へ抗議訪問をしました。担当者に申し入れ書を読み上げ、一時間にわたって面談しました。

スウェーデンの平和博物館研究家・ジャーナリストGunilla Cedrenius(ギュニラ・セドレニウス)さんが来館し、高知の戦争遺跡を訪れるなど、草の家会員との交流を深めました。

イラク侵略戦争が始まって2年が過ぎました。草の家では3月12日から19日までイラク写真展「侵略と占領」を高知市民図書館で開きました。約600余名の市民が参観しました。また、原告団に草の家の会員が参加している自衛隊イラク派兵差し止め訴訟弁護団の川口創(カワクチハジメ)弁護士を招き、記念講演を行いました。

第1～3週金曜日(5時～7時)、最終の日曜日(2～4時)、帯屋町で米英のイラク侵略反対、自衛隊撤退を訴え市民行動、ピースライブを続けています。

平和と民主主義を守り、社会進歩のために活動された方々を追悼する第58回解放運動無名戦士合葬追悼会が東京日本青年館で開催され、西森茂夫館長が解放運動無名戦士墓に合葬されました。

5月14日、草の家の定期総会を行い、岡村正弘館長を中心とする新しい体制が決まりました。草の家は設立者西森茂夫さん

の平和への思いを継承して参りますので、これからも草の家の活動にあたたかいご支援、ご協力をお願いします。

北九州平和資料館をつくる会：福岡

1996年2月17日に開館した北九州平和資料館準備室は、2004年1月21日に閉館し、展示されていた主な戦時遺品・資料は北九州市に寄贈されました。そして2004年8月1日に、小倉北区金田にある北九州市埋蔵文化財センター内に「戦時資料常設展示コーナー」が開設され、約150点の戦時遺品・資料が展示されています。

Tel:093-771-5878

長崎原爆資料館

「原爆資料館所蔵資料展」が地下2階の企画展示室で2005年2月4日～3月29日の会期で開催されました。

企画展「松本栄一写真展」が地下2階の企画展示室で2005年5月13日～8月31日の会期で開催されています。松本さんは朝日新聞社出版局の写真課員で、1945年8月下旬から9月中旬にかけて『科学朝日』の原爆特集のため長崎に入り、被爆した長崎の街を撮影しました。今回は松本さんが撮影した写真約70点が展示されます。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bomb/museum/>

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

国連軍縮週間にちなんで「ナー ज्याの村写真展」が交流ラウンジで2004年10月22日～11月4日の会期により開かれました。

これは、チェルノブイリ原発事故により放射能汚染地帯になった村に住む人びとの生活の様子を撮った写真家本橋成一さんの作品展です。

Tel:095-814-0055

<http://www.peace-nagasaki.go.jp/>

岡まさはる記念長崎平和資料館

3月24日の理事会で、井原監事が1月末に中国の「731部隊罪証陳列館」と「9・18歴史博物館」を訪問し、交流を深めました。詳しくは次号の「西坂だより」を御覧ください。5月3日には、「ながさき9条フェスタ」が開催され、大いに盛り上がりました。(ホームページより)

下記は、今後の様々な取り組みの予定です。

5月13日 シンポジウム「真の日中友好を考える～歴史認識を共有し未来を創る～」に、実行委員会参加団体として取り組む。7月7日 第1回「岡正治さんに学ぶ会」の企画として、理事長が「道ひとすじに」(岡先生の著書名)を回顧、栄維木氏(中国抗日戦争史学会副秘書長)の記念講演(熊本、広島との共同企画)8月11日～18日 第5次岡まさはる記念長崎平和資料館南京友好訪中(第20次銘心会南京友好訪中団に合流):公募による長崎県内在住大学生2名が第3次《日中友好・希望の翼》として参加 9月17日～24日 731部隊罪証展示記念館等訪問訪中: 731部隊罪証展示記念館訪問および同館との友好館提携(予定) 9・18戦争博物館訪問、鉄嶺陸軍病院における残虐行

為(頭蓋骨もてあそび等)の実態調査 10月1日 岡まさはる記念長崎平和資料館設立10周年記念行事(内容未定) 12月10日前後 第6回「南京大虐殺生存者証言集会」(例年どおり生存者1名と研究者1名を招聘予定、熊本、広島との共同企画)(高實康稔理事長より)

長崎市西坂町9の4

Tel: 095 820 5600

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okaki nen/annai.html>

出版物など

「平和学のアジェンダ」:岡本三夫・横山正樹編、法律文化社、2005年
戦争と平和 Vol.14: 大阪国際平和研究所紀要(Proceedings of Osaka International Peace Research Institute: War and Peace) 2005年3月出版

峠三吉資料目録: IPSHU 研究報告 No.32 広島大学平和科学研究センター、2004年

長崎平和研究 No. 19 April 2005: 長崎平和研究所(Nagasaki Peace Studies by Nagasaki Peace Institute)

Tel & fax: 095-848-6037

平和文化研究第27集: 長崎総合科学大学 長崎平和文化研究所 2005 (北沢洋子「グローバリゼーション時代における平和の課題」など)

高校生一万人署名活動: ナガサキ新聞新書 2005年 Tel: 095-844-5469

shuppan@nagasaki-np.co.jp

第 34 回空襲・戦災を記録する会全国連絡会
議報告集：実費 600 円(420 + 郵送代 180)
横浜の空襲を記録する会：横浜市緑区北
八朔 小山保育園内 小田 康雄気付
〒226-0023
☎ 045-933-2227
ファクス 045-933-2353
〒振替口座 0290-2-32268
e-mail at00-fujii@city.yokohama.jp

A Peace and Disarmament Curriculum
for Cambodian High Schools by Working
Group for Weapons Reduction.
Supported by Hague Appeal for Peace
and UN Department for Disarmament
www.wgwr.org

* DVD : Rabbit In the Moon.

日系アメリカ人の歴史をDVDで学ぶこと
ができます。(英語版)

www.rabbit-in-the-moon.org

DVDを入手したい方は、送料を含めて
\$34.95. 送ってください。

* 9条ブックマーク

法学館憲法研究所で憲法9条をデザインし、4
ヶ国語で戦争放棄と記載したブックマークの普
及をしております。

(<http://www.jicl.jp/jimukyoku/backnumber/netshop.html>)

NPO 法人「人権・平和国際情報センター
(HuRP = ハープ)」が設立記念グッズ「9
条ブックマーク」を作成しました。ブック
マークを本にはさむと「9」の文字になり
ます。ブックマークの「9」の形の中には
「戦争放棄」が日本語、英語、フランス語、

エスペラント語で記されています。

お洒落で、素敵なプレゼントにもなります。
諸外国の方々ともこのブックマークを通し
て平和と日本国憲法9条について語り合い
たいものです。

一つ 1000 円 (特別価格・消費税込み)で
す。

お申し込みは、お名前、住所、電話番号、
注文個数をご記入の上、法学館憲法研究所
まで、ご注文フォームもしくはFAX(03
- 3780 - 0130)でご連絡ください。
代金を振り込む郵便振替払込書とともにお
送りします。代金はブックマークが到着し
た後、郵便振替払込書でお支払いください。
なお、送料はお買い求めいただく皆さんに
ご負担いただきます(1個ならば80円です)。



ポスターなどベトナム戦争証跡博物館へ

ベトナムの戦争証跡博物館では、世界の平和
博物館に関する展示を計画しています。あな
たが関わっている平和博物館に関する資料や
ポスターを、下記に送ってください。

Ms. Hynh Ngoc Van, Viuce-director, War
Remnants Museum: 28 Vo Van Tan St, District
3, Ho Chi Minh City, Vietnam

お願い

2005年度になりました、会費未納の方には、請求と振替用紙を同封しております。会費 2000 円を納入ください。なお未納会費のある方は未納分も合わせて納入ください。新入会も歓迎します。事務局の立命館大学国際平和ミュージアムまで、お名前・ご住所をお知らせの上、会費 2000 円をお送りください。

今年は戦後 60 年です。すでに東京では東京空襲 60 年関係の特別展が春に開催されています。これから、戦後 60 年関係の特別展などが数多くの博物館で開催されると思います。できる限り記録したいと考えていますので、ご存じの方は、戦後 60 年関係の博物館の取組の予定や結果を、立命館大学国際平和ミュージアムの山辺までお教えいただくようお願いいたします。また「平和のための博物館・市民ネットワーク」のあり方などについてもご意見をお寄せください。

原稿募集

英文の *Muse* を 12 月に海外の平和博物館に発送します。日本各地の平和博物館、資料館などのニュースを載せますので、「草の家」に原稿や資料を 11 月末までに送って下さい。

780-0861 高知市升形 9 - 11

「草の家」国際交流部 山根和代

Tel: 088-875-1275 Fax: 088-821-0586

GRH@ma1.seikyoku.ne.jp

<http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/>

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を、必ずしも示すものではありません。

国際ネットワークの通信が長い間発行されていっていませんでしたが、今度草の家の金英丸さんが、編集長になりました。またホームページが新たに作られ、そこに今後載せていく予定です。

<http://www.museumsforpeace.org/>



高知市にある平和資料館「草の家」事務局長の金英丸さんです。ゲルニカでの国際会議で、国際ネットワークの通信の編集長および執行委員会のアジア代表として選出されました。またこれまで発行された「ミュージーズ」と *Muse* を「草の家」のホームページで見ることができるように取り組んでおられます。ロゴなど連絡をしたい方は、左記の電話、ファックス、メールを御利用ください。